
ねこごっこ

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ねこごっこ

【Nコード】

N2338I

【作者名】

ユウ

【あらすじ】

昔から存在する猫

それは人間が生きていく中では欠かせない生き物となった
どこにでもいる普通の青年。

ある日、当然変な手紙が届いた

それはねこを捕まえるというゲーム

「ねこごっこ」だった

そこで気付く、青年の気持ち・・・

感動のラスト・・・！

プロローグ

○プロローグ○

猫って不思議だよな。

見てるだけでなんか癒される

もちろん猫以外の動物を見ているも癒されるんだけど
猫は別格だ

猫をペットとして飼っている人も
そうゆう気持ちなんだと思う

でもなんでだろ・・・
昔からあの猫だけは敬遠される

・・・「黒猫」

黒猫に横切られると不幸になる

どこからか流れてきたこの噂は猫達はどう思っているのだろうか？

この物語は猫と人間のある物語の一部である

招待状

ただ過ぎていく毎日

今は過去になつて未来が過去になるのをただ待っている日々

これを現代では「退屈」という

今は俺がいるこの日本は平和を掲げ、日々、成長している

しかしその平和は過去の人たちが望んだ世界

戦争ばかりしていた世界が望んだ世界だ

そして今、その願いが叶つてこの世界は実に平和だ

そう・・・退屈するほどに。

俺の名前は夢斗

これで「ゆめと」って読む

これも今の平和な日本だからつけられた名前だろ

名前に夢があるのに俺自身、なにかやりことなどなにもなかった

なにもしなくても生きていけるこの世界

何も目指さなくても人として権限をもてるこの世界

俺は・・・「退屈」していた

「ゆめとー!」

「……」

「ゆめとー!」

「……」

ガチャッ

「あれ?ゆめと寝てたの?あんた手紙来てるわよ」

「母さん……服踏んでるぞ……」

「あら!ごめんごめん。でもあんたが片付け無いからでしょ!」

「しょうがないだろ!この部屋狭いし片付けたらこんなじゃないじゃないか!」

「なに生意気なこと言ってるの!屋根があるだけでもありがたいと思っただけよ」

「……」

「あー、そうそうあんた宛てに手紙来てるわよ！」

「手紙？」

「はい。あと今から買い物行くけど晩御飯なにが良い？」

「なんでもいいよ」

「なんでもいいって料理はありません！」

「じゃあステーキで」

「ステーキなんて食べれるわけ無いでしょう！」

「じゃあ何がいけるんだよ」

「なんでもいいわよ」

「……じゃあなんでもいいよ……」

「じゃあ母さんが好きなものかって来るわね」

「……行ってらっしゃい……」

ガチャ

「・・・ふう」

母さんはとても元気だ
正直、うっとうしいけどまあ元気の無い親より元気一杯の母さんの
ほうがいいから別にいいんだけど

今は夏休みだ

大学の夏休みというものは長いもので2ヶ月ほどある
そして今はまだ夏休みが始まって3日目
まだまだ夏休みがある

普通ならここで友達と海に行ったりどこか旅行しに行ったりするだ
ろうが生憎俺には
友達はいない

1人好きというのものもあるがなぜか他の人とはウマが合わない
人は俺をマイペースというが俺は別にその性格が間違っているとは思
わないし
むしろあっていると思う

猫のようにマイペースで自分の生きたいように生きる
それが俺のモットーだ。

「・・・そういえばこの手紙なんだろう？」

母さんから渡された手紙

俺には文通などをしている相手はいないし
なにかに応募した覚えも無い

「差出人は・・・」

ない

「とりあえず開けてみるか」

招待状

「ネコハスキデスカ？」

「なんだこれ・・・」

「いたずらか？」

「しかしもう一枚、紙がある」

「ゲーム参加ありがとうございます。ゲームの詳細事項は裏面に書いてますのでご確認ください。お客様の勝利を願っています。」

「・・・ゲーム？」

「それになんだよ猫は好きですか？って」

説明もなにもない
ただわかっているのは俺がこのゲームに参加してしまっているということ

「猫か・・・」

俺は小学生の頃に猫を飼っていた
友達の少ない俺は猫という時間が本当に充実していたんだ
どこにもいくにも猫を連れて行った
でもおれのそんな行動があいつを殺してしまったんだ

俺の目のまで車に引かれた

俺は自分を責めて責めて、泣いて泣いて・・・

でも母さんが慰めてくれて・・・
立ち直れたけどやっぱりたまに夢に出てきてしまう

そして俺はやっぱり猫が好きだ

あいつの存在があつたから今の俺があると思う
猫の大事さがわかるからこそ本当につらい
でもだからこそ俺はあんなことがあつても猫が好きだと言える

「・・・退屈だし・・・行ってみるか」

俺はこの怪しいゲームに参加することを決めた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2338i/>

ねごっこ

2010年10月16日00時07分発行